

- 問1 3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。
(2020年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------|---------------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 1. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った | 2. 匈奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した | 3. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた | 4. 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた |
|---------------------------|---------------------------|--------------------------------|---------------------------|
- 問2 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。
(2016年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------|--------|-------|
| 1. 日本書紀 | 2. 魏志 | 3. 後漢書 | 4. 史記 |
|---------|-------|--------|-------|
- 問3 3世紀に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏へ使節を送り「親魏倭王」の称号や銅鏡などを得た背景について、当時の日本の状況を踏まえた説明として正しいものはどれですか。
(2021年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 中国が日本に対して朝貢を強制し、従わない場合は貿易を禁止すると通告してきたため | 2. 魏の軍勢力を直接日本に呼び寄せ、反対勢力を武力で一掃して一気に領土を拡大しようとしたため | 3. 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後ろ盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため | 4. 日本の優れた絹織物を中国全土に普及させ、大陸での市場独占権を皇帝に認めてもらうため |
|--|---|---|--|
- 問4 1世紀頃、日本（倭）の小国の王が中国の漢（後漢）の皇帝に使いを送り、皇帝から臣下として認められた証として授けられたとされる金印には、どのような文字が刻まれていますか。
(2019年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|----------|--------|
| 1. 卑弥呼 | 2. 親魏倭王 | 3. 漢委奴国王 | 4. 志賀島 |
|--------|---------|----------|--------|
- 問5 紀元前後に位置する東アジアの歴史を記した年表において、1世紀半ばに日本の「倭」の中にあった「奴国」の王が、ある中国の王朝に使節を送り、その証として金印を授けられたという記述があります。この時、奴国の王が使節を送り、金印を授かった王朝の名称として正しいものを選択してください。
(2025年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|------|------|------|
| 1. 漢（後漢） | 2. 隋 | 3. 秦 | 4. 魏 |
|----------|------|------|------|
- 問6 弥生時代の集落で見られる、地面を円形や方形に掘り下げて床を作り、そこに数本の柱を立てて屋根をかけた、当時の人々が生活していた一般的な住居形式を何といいますか。
(2018年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|--------|
| 1. 合掌造り | 2. 高床倉庫 | 3. たて穴住居 | 4. 寝殿造 |
|---------|---------|----------|--------|
- 問7 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、小野妹子を遣隋使として中国の隋へ派遣しました。その際、中国の皇帝に宛てた手紙の中で「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」という有名な一節を記しました。この外交姿勢の背景にある、従来の中国との関係からの変化について、正しい説明を選びなさい。
(2024年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。 | 2. 日本の天皇を中国の皇帝よりも上位に位置づけ、中国を日本の属国にしようとした。 | 3. 中国の皇帝からの称号を拒否し、完全に国交を断絶して鎖国体制を築こうとした。 | 4. 中国の皇帝に対して朝貢を一切行わず、民間商人による自由貿易のみを求めるようになった。 |
|---|---|--|---|
- 問8 奈良県にある唐古・鍵遺跡のような、周囲を深い濠（ほり）で囲んだ「環濠集落」からは、高床の建物が描かれた土器などが出土しています。このように、集落の周りに濠を巡らせた主な目的と、この時代の近畿地方において主に祭祀（お祭り）の道具として使われていた青銅器の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
(2018年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------|-----------------------------|----------------------------|-------------------------------|
| 1. 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため / 青銅器：銅鐸 | 2. 目的：水害から住居を守るため / 青銅器：はにわ | 3. 目的：水害から住居を守るため / 青銅器：銅鐸 | 4. 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため / 青銅器：土偶 |
|-------------------------------|-----------------------------|----------------------------|-------------------------------|
- 問9 大陸からの技術伝来によって起きた、弥生時代の道具の変化に関する説明として正しいものはどれですか。
(2018年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 中国から伝わった鉄を使い、日本独自の文化である縄文土器の文様がより複雑になった。 | 2. 朝鮮半島から伝わった技術により、打製石器を加工して鉄のように鋭くする技法が確立した。 | 3. 石器から金属器への移行が進み、実用的な道具には主に鉄が用いられるようになった。 | 4. 青銅が農具の主材料となり、それまで使われていた木製農具は全く使われなくなった。 |
|---|---|--|--|
- 問10 出土した人骨の統計において、縄文時代に比べて弥生時代は武器などによる傷を受けた割合が高いことが分かっています。こうした背景から、当時の人々が敵の侵入を防ぐために、居住域の周囲に深い堀や溝を巡らせた集落を建設しました。この防御的な構造を持つ集落を何と呼びますか。
(2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 高床倉庫 | 2. 環濠集落 | 3. 前方後円墳 | 4. 竪穴住居 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問11 縄文時代末期に大陸から北九州地方へ稲作が伝来したことにより、その後の社会の仕組みはどのように変化しましたか。最も適切な説明を選びなさい。
(2016年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 米を貨幣として使用する制度がすぐに確立し、中央集権的な国家が全国に一斉に誕生した。 | 2. 大陸との交易が独占されたため、各地の集落が独立したまま争いのない平和な時代が続いた。 | 3. 全国で狩猟や採集が完全に行われなくなり、全ての集落が移動をしない定住生活を同時に開始した。 | 4. 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。 |
|--|---|--|---|
- 問12 邪馬台国の女王である卑弥呼は、239年に中国の魏へ使節を送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。卑弥呼がこのように中国の王朝と外交関係を結んだ主な政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。
(2020年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---|---|--|
| 1. 魏から金銀などの貴金属を輸入し、国内で独自貨幣の発行を開始するため | 2. 魏で施行されていた律令制度を学び、日本で最初の本格的な法治国家を建設するため | 3. 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた匈奴国などに対して自国の優位性を示すため | 4. 朝鮮半島南部にある任那の日本府を維持するために、魏へ軍事支援を要請するため |
|--------------------------------------|---|---|--|
- 問13 佐賀県の吉野ヶ里遺跡のような「環濠集落」が弥生時代に多く見られるようになった背景として、当時の社会状況を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。
(2023年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 大規模な祭祀を行う場所を確保するため、居住区と神聖な場所を区別する必要が生じたため。 | 2. 狩猟や採集を中心とした生活から、山岳地帯に拠点を移して生活を守るため。 | 3. 大陸から馬や牛などの家畜が導入され、それらが逃げ出さないように囲いを作る必要があったため。 | 4. 稲作が始まり、余剰生産物や土地・水をめぐる集落間の争いが激しくなったため。 |
|---|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 一人の女性を王として共立し、国をまとめた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を収拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問2	答え 3 後漢書	西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。
問3	答え 3 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後ろ盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため	当時の日本（倭）は、多くの小国が対立し合う「倭国大乱」を経て、女王卑弥呼による連合体である邪馬台国が形成された時期でした。依然として国内には対立勢力が存在していたため、卑弥呼は圧倒的な文化と武力を持つ魏の皇帝から「倭王」として認められることで、自らの統治能力と地位を盤石にしようと考えました。
問4	答え 3 漢委奴国王	1世紀（西暦57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝に朝貢した際、皇帝から授けられたものです。この金印には「漢の委（倭）の奴の国の王」を意味する文字が刻まれており、当時の中国が周辺の支配者に称号や印を与えて地位を認める国際秩序（冊封体制）の一部であったことを示しています。
問5	答え 1 漢（後漢）	1世紀半ばにあたる57年に、倭の奴国の王が中国の王朝である「漢（後漢）」に使節を送り、光武帝から金印を授けられたことが、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡県にある志賀島（しかのしま）で発見され、「漢委奴国王」という文字が刻まれていました。
問6	答え 3 たて穴住居	弥生時代の集落において、人々の生活の場として最も一般的だったのがこの住居形式です。地面を掘り下げることで断熱効果を高めていたと考えられており、縄文時代から継続して用いられました。地面を掘り下げて床にする構造がその名称の由来となっています。
問7	答え 1 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。	それまでの朝貢外交は、中国の皇帝を上位、周辺諸国の君主を下位とする主従関係が前提でした。しかし、聖徳太子が送った手紙は、日本の君主も中国と同じ「天子」という称号を用いることで、形式上の臣下という立場から脱却し、より対等に近い国際関係を築こうとする意図が含まれていました。これに対し、隋の煬帝は不快感を示しましたが、当時の朝鮮半島の情勢などもあり、日本との関係を維持しました。
問8	答え 1 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため / 青銅器：銅鐸	弥生時代の遺跡に見られる「環濠集落」は、稲作が始まり蓄えができたことで発生した、集落同士の争いに備えた防御施設としての性質を持っています。奈良県の遺跡から出土した建物が描かれた土器などは、当時の生活の様子を伝える貴重な情報源です。また、この時代には大陸から青銅器の技術が伝わりましたが、特に近畿地方では鐘のような形をした「銅鐸」が作られ、豊作を祈るなどの祭りの道具として用いられました。土偶は縄文時代の呪術的な道具、はにわは古墳時代に古墳に並べられたものです。
問9	答え 3 石器から金属器への移行が進み、実用的な道具には主に鉄が用いられるようになった。	大陸からの技術伝来により、それまでの石器を中心とした生活から、金属器（鉄器・青銅器）を利用する生活へと変化しました。これを技術革新と呼びます。鉄は非常に実用性が高く、農具や工具、武器として社会を支える基盤となりました。この変化は、食料生産の増加や集落間の争い、さらには社会の階層化にもつながる重要な転換点となりました。
問10	答え 2 環濠集落	集落の周りに堀（溝）を巡らせた環濠集落は、佐賀県の吉野ヶ里遺跡などに代表される弥生時代の特徴的な集落形態です。受傷人骨の増加という考古学的な事実とあわせて、当時の社会が常に争いの危険にさらされていたこと、そして集落が共同体として自衛機能を持っていたことを示しています。
問11	答え 4 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。	稲作によって収穫された米は、それまでの狩猟・採集による食料とは異なり、長期保存が可能でした。これが余剰生産物としての「富」を生み、それを管理するリーダーの出現や、有利な土地を確保するための集落間の紛争、さらには身分の格差へとつながり、社会の構造を大きく変える要因となりました。
問12	答え 3 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため	邪馬台国は、南に位置する狗奴国と激しく対立していました。卑弥呼は当時、中国で強大だった魏の皇帝から公式に「倭の王」として認められることで、その権威を背景に国内の統治を固め、対立勢力に対して有利な立場を得ようとしたと考えられています。これは当時の東アジアにおける国際秩序を利用した外交戦略でした。
問13	答え 4 稲作が始まり、余剰生産物や土地・水をめぐる集落間の争いが激しくなったため。	縄文時代から弥生時代にかけて、大陸から稲作が伝わったことで社会は大きく変化しました。米という貯蔵可能な余剰生産物が生まれたことで貧富の差が生じ、水田に欠かせない土地や水を奪い合う「戦争」が頻発するようになりました。吉野ヶ里遺跡に見られる濠や柵、物見やぐらといった設備は、こうした争いに備えた防御施設としての役割を持っていました。